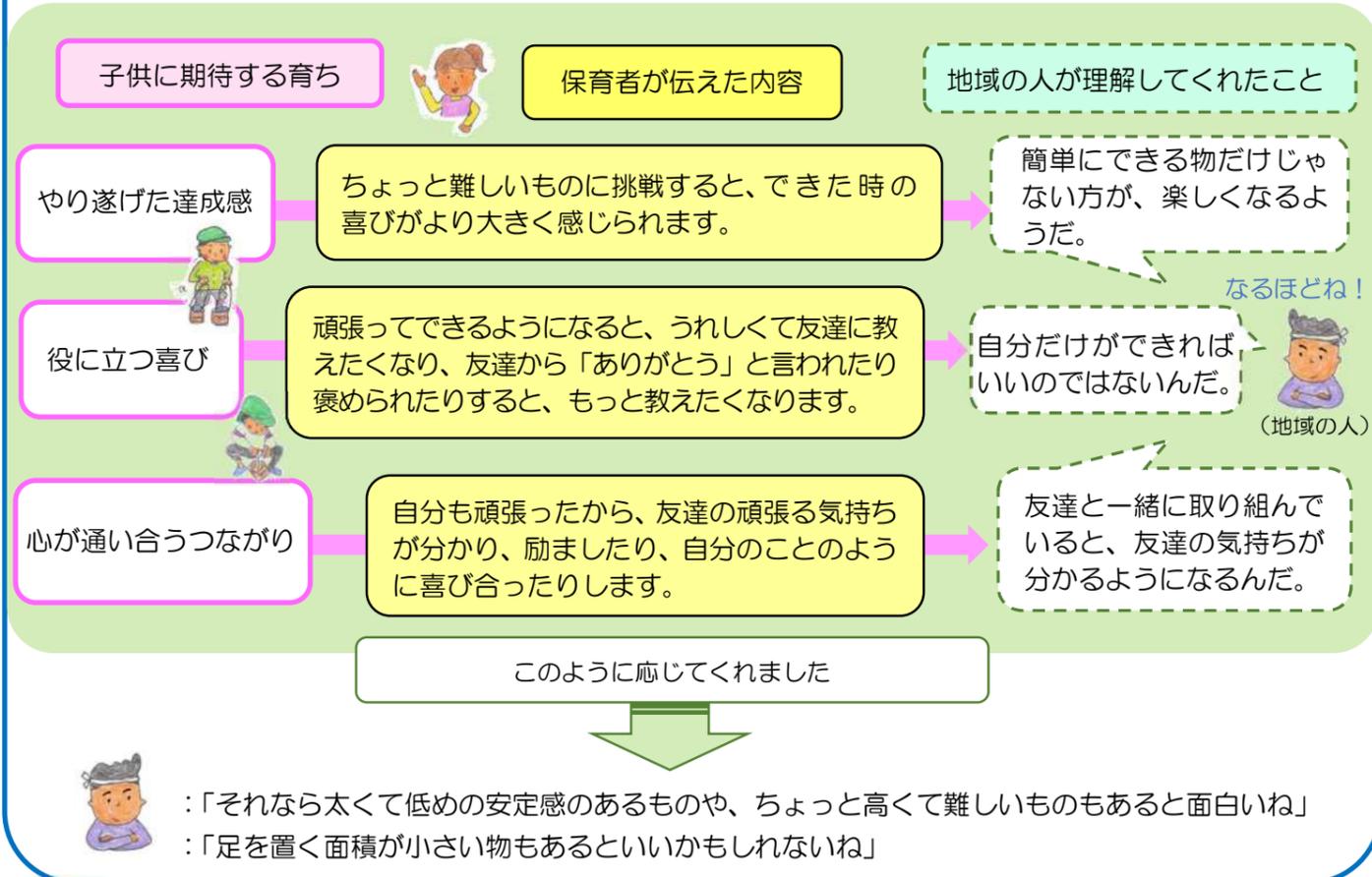


子供に期待する育ちを地域の人にわかりやすく伝え協働活動にする

年長児3学期、指導計画のねらい；「自分なりの目的をもって取り組み、達成感を味わう」の活動を計画

- ・この頃、子供の「竹ぼっくり」や「竹馬」への毎日の取り組みが盛んになる
- ・新しい竹ぼっくりの作成を、近隣の竹藪を所有されている地域の人に相談する
- ・地域の方は、子供が、簡単に乗れる高さ大きさの竹の見本を用意し、さっそく来園する
- ・子供に経験してほしい（保育のねらい）内容について共有するために打合せをする



ポイント 「遊びの中でいろいろとできることが増えていくようにするんだね」（地域の人に伝えたことから）

子供の育つ姿を共有することができたのは、どのような体験を通して、どのように育とうとしているのか、そのプロセスで学ぶことを保育者が具体的に伝えたからです。連携の在り方まで詳細に踏み込んだ話し合いを行い、子供に期待する育ちを丁寧に伝えたことで、よりふさわしい活動になるような協力を得ることができました。

まとめ

子供の育ちの理解を得るためには、様々な方法で、具体的に子供の育ちを伝え、それがどのように相手に伝わったのかまで意識し、確認することが大切です。遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と関わりながら、総合的に学んでいく幼児期の子供について、幼児教育施設と家庭、小学校を含む地域がそれぞれのもつ機能を向上させながら連携・協力し、「社会に開かれたカリキュラム」の実現につなげていきましょう。

幼児教育における「社会に開かれたカリキュラム」の実現をめざして
～ 幼児期に育みたい資質・能力の理解に向けて～

社会に開かれたカリキュラムの実現とは、よりよい教育を通じてよりよい社会を創るという目標を社会と共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質能力を子供たちに育むことです。よりよい教育を進めるためには、家庭や小学校、地域との相互理解を図ることが必要です。子供の発達の姿を見通し、子供への関わり方の理解を一層深めながら、組織的かつ計画的に教育・保育活動の質の向上を図っていきましょう。



園の職員も 子供の家族も 友達の家族も 小学校や中学校の先生も 地域の人たちも
幼児期に様々な遊びを通して育っていく姿を
社会のみんなで理解しよう
子供は**熱中**して、**没頭**して、**追求**して遊ぶことから学んでいきます
子供に**どのように関わるのか**
それぞれの個性や発達に**ふさわしい援助や連携・協力を考えましょう！**

保護者へ情報発信しよう！

～ SNSや保育ドキュメンテーション※1を活用して～

アプリ配信や掲示写真だけでなく、保護者と保育者が直接対話して育ちを共通理解する

〈週1回程度、保育ドキュメンテーションを各クラスの保護者にWeb配信〉

- ・送迎の機会の少ない家族へも園での子供の姿を知ってもらおう



へえ、楽しそう！
園ではこんなことを
して遊んでいるんだね。

〈配信した写真とコメントの一部を拡大印刷して、翌日クラス別に掲示〉

- ・保護者は、他学年や他クラスの姿にも興味・関心が広がる
- ・子供の成長の様子その他、園内外での様々な遊びや活動の必要性、そこでの体験の深まりを知っていく

〈保護者が写真を見ているところに担任や園の職員も参加〉



【掲示に見入る保護者】

子供の様子や育ち
をより実感して
もらえるように！

おしゃべり感覚で
楽しく！



【保護者と対話する保育者】

(年長組保育者) 「これは何を焼いているの？」

「ピーマンだよ」 (年中児)

「あら、家では食べないのよね」 (年中児保護者)

(年長組保育者) 「年長組でも『本物らしさを追求したバーベキューごっこ』をしているんですよ」

き組 BBQごっこで遊んだよ

(年中組)



「トングを使ってひっくり返そうよ」「やけどしないようにね」「こんがり焼こう」「おいしそう～！」

〈Web配信だけでは伝えきれない具体的な姿や遊びの経過などを補足・伝達〉

ポイント

Web配信、掲示、対話、様々な方法を使って、園での子供の姿や、年齢での育ちの違いなどを保護者と共通理解する機会をもつようになっています。

「他のクラスの様子や年齢による育ちもよくわかりました」(送迎する年中児保護者からの声)

園での子供の様子を写真等で伝えられることが増えてきて、子供の様子がよくわかります。家庭でも家族の間で、園で子供が経験している遊びについての話が弾むようになりました。送迎の際に、掲示物を見ながら、先生(保育者)から「年中組では子供の思いを聞いて保育者が作ったものを使って遊んでいます、年長組になると自分たちでいろいろな素材や材料を使って野菜や肉などを本物らしく作り、遊びを楽しんでいます」という話を聞いて、「同じ『バーベキューごっこ』でも年長さんになると違うんだな」と感心しました。時期や年齢に応じて子供たちが経験していることの違いや育ちについて、園が配慮していることや、子供の発達に応じて対応してくださっていることがとてもよく理解できました。

※1 保育ドキュメンテーション…子供の活動(学びのプロセス)を写真や動画等で視覚的に記録するもの

小学校等関係者へ育ちのプロセスを伝えよう！

～ 学びを日々の遊びから捉える～

保護者用の掲示や印刷物を活用して、「遊びを通じた学び」へのプロセスを小学校の先生に伝える

掲示した印刷物を利用して資料を作成



6月から継続的に子供たちが熱中して取り組んだ遊びを、保育ドキュメンテーションとして保護者に配付しています。その資料をもとに、交流会や研修の場で小学校の先生に「遊びのプロセス」を具体的に伝えながら「遊びは学び」であることの共通理解を図りました。



年長児 6月の遊びの姿

昨年度の年長組が取り組んだおばけやしきの楽しかった体験から、今度は自分たちのおばけやしきで年下児を招待しよう、と遊びが始まりました。共通の目的に向け、試行錯誤しながら一緒に取り組む楽しさや、目的が実現していくうれしさを味わっています。

「ここを切ればいいかな？」
相談し、協力して取り組む力

「ねえ、この段ボールで仕切ってみたらよくない？」
言葉で伝え合う力
新しい考えを生み出す力

「ここ、持っていて」「腕が通るように切ろうね」
自分たちで考えて行動する力
役割を分担して取り組む力

遊びをよく見ると
様々な学びが見えてくるね。

ポイント

「遊びのプロセス」に注目してもらい、
幼児期に育みたい資質・能力※2が遊びを通して育まれていることに気付いてもらいます。

(小学校教員)

(保育者)



「これまでの経験から、イメージを実現するために段ボールカッター等、どの道具を使うとよいかを考えたり、材料を選んだり、作業の分担をしたりしながら協力して取り組もうとしています」

(小学校教員)



「この遊びにはどのくらいの期間取り組んだのですか？毎日ですか？」



「年下の子を招待するまで、一か月程取り組んでいました。期間については子供の様子を見ながら臨機応変に決めていきます。一人一人の興味や関心は様々です。“おもしろそう！”“やってみよう！”と、心を動かした時に取り組めるよう、時間や場などゆとりを持たせた環境を整えています」



「そうなんですね。このような理解を進めるために、もっと一緒に学ぶ機会をもちましょう！」

「遊びを通して育まれた資質・能力が小学校でも生かされます」(小学校の先生からの声)

このような(上記事例の)経験は、子供の感性や表現力を育てていく上で重要だと思います。幼児期の教育と小学校の教育は時間の区切り方や学びの方法等に違いはありますが、自分の考えや思いを伝え合う経験が小学校での学習に広く生かされていきます。教育(保育)の中の共通するところを見つけ出しながら、よりよく引き継いでいくことが大切だと考えます。

例えば、小学1年生及び2年生の生活科では、「豊かな感性と表現」に関する場面として、『自然や物を使った遊び』の内容があります。「遊びや遊びに使う物を工夫して作る」(思考力や判断力、表現力を育てる)活動や、「皆と楽しみながら遊びを創り出そうとする」(学びに向かう力や人間性を養う)活動につながると考えます。

※2 幼児期に育みたい資質・能力…「令和2年度愛知県幼児教育研究協議会」のリーフレット参照